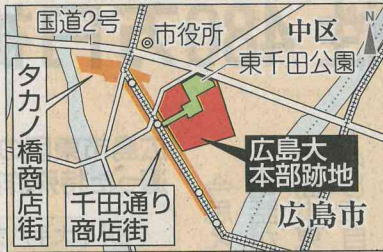


「街に活気」「学生と連携を」



広島大法学部 東千田移転を発表



法学部が移転する
広島大の東千田キ
ャンパス

住民や商店街期待の声

「地域の新たな歴史が始まる」「街に活気が生まれれば」。広島大(東広島市)が法学部を東千田キャンパス(広島市中区)に移転させることを正式に発表した29日、千田地区の住民や商店街関係者たちから歓迎の声が相次いだ。1面関連。

(千葉教生)

千田町二丁目内会の小野本利明会長(71)は「大学と歩んできた歴史が街の誇り。新たなページを刻んでいきたい」と、喜びをかみしめる。千田地区社会福祉協議会の村上堅造会長(74)も「若い力がありがたい。学生たちと連携し、地域を盛り上げるイベントを企画できれば」と思い描いた。

東千田キャンパスが入る広島大本部跡地近くの千田通り商店街は、学生街としてピーク時には古書店や喫茶店など90店舗が軒を連ねた。だが、1995年に完了した同大の東広島市への統合移転をきっかけに閉店が相次ぎ、現在は46店舗に半減した。

そんな中、昨年4月には53階建てのタワーマンションが完成。さらに法学部の移転が2年後に迫り、地域活性化へ期待が膨らむ。広島大出身で千田通り商店街で電器店を営む岡崎洋司さん(77)は「商店街の雰囲気が変わり、人通りも少なくなつたが、学生の街という意識はずっと持っていた。大学や学生にとっても都心に帰るメリットはあるはず」と歓迎。理容院を営む田健一さん(38)も「街に活気が戻れば、経済効果も期待したい」と笑顔を見せた。

跡地から北西に約400メートル離れた中区大手町のタカノ橋商店街でも、喜びの聲が上がる。同商店街振興組合の谷沢隆夫理事長(71)も「新型コロナウイルスの感染拡大で苦しい状況が続く中、うれしいニュース。学生を迎えるために新たな店の誘致なども考えたい」と見据えていた。

跡地から北西に約400メートル離れた中区大手町のタカノ橋商店街でも、喜びの聲が上がる。同商店街振興組合の谷沢隆夫理事長(71)も「新型コロナウイルスの感染拡大で苦しい状況が続く中、うれしいニュース。学生を迎えるために新たな店の誘致なども考えたい」と見据えていた。